

価値創造の源泉(資本)

リスクマネジメント **グループガバナンス**



この数年間で、堺化学工業(株)湯本工場の爆発火災事故、小名浜事業所酸化チタン工場の火災事故、カイゲンファーマ(株)での不祥事といった、品質・安全に関する事故や問題が相次ぎ、社会の信頼を大きく損ねました。深くお詫び申し上げます。これらの事態を重く受け止め、品質・安全管理体制の立て直しを堺化学グループの重要課題と位置付け、ガバナンス強化を含めた再発防止に努めています。

品質管理体制立て直しの進捗

カイゲンファーマ(株)の薬機法違反による業務改善命令を受け、行政当局からの指導ならびに特別調査委員会からの再発防止に関する提言を踏まえ、是正措置および再発防止策

品質・安全問題の再発防止原因と対策

	カイゲンファーマ(株) 薬機法※違反による「業務停止命令」「業務改善命令」	堺化学工業(株) 湯本工場 亜鉛末工場 爆発火災事故	堺化学工業(株) 小名浜事業所 酸化チタン工場 火災事故
発生日	2023年12月22日(行政処分)	2021年5月11日	2023年3月30日
原因	●管理監督体制の不備 ●閉鎖的な組織風土(カイゲンファーマ(株))	●堆積粉塵の蓄積 ●回転体の破損	●特殊設備の不具合
個別対策	カイゲンファーマ(株) ●経営体制の刷新 ●全社組織の改編と仕組みの整備 ●リソース管理とジョブローテーション ●役員に対する教育の強化 ●法令遵守管理体制の整備	●工程中の堆積粉塵の除去 ●粉塵除去頻度の改善	●不具合改善に向けた同種設備の改良
全社対策	堺化学工業(株) ●改善計画の推進と監督 (カイゲンファーマ(株)へ派遣する社外取締役を2人に増員し、モニタリングを強化)	(1)安全意識の再徹底:「過去起きていないから安全」ではないという意識の徹底 ●トップメッセージの定期的な発信(事故を風化させない) (2)安全対策:経営から現場まで全員による安全衛生活動の実践 ●リスクアセスメントにおける外部からの指摘事項の解決 ●より有効的なリスクマネジメント発揮に向けた研修の実施 ●安全衛生に関する標準類の継続的な確認	

※ 薬機法:医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保等に関する法律

を含めた改善計画を策定しました。

加えて、カイゲンファーマ(株)の代表取締役社長を本部長、総括製造販売責任者を副本部長とする「改善計画推進本部」を設置し、持続的な再発防止策を練り、安心してご使用いただける医薬品等の製品を安定的に供給できるよう、諸施策を実践しています。

堺化学グループは、法令で定められた検査やお客さまと取り決めた仕様・品質に適合する製品の製造と品質検査を適切に実施し、安全で高品質な信頼できる製品・サービスの提供に努めます。

安全管理体制立て直しの進捗

事故により被災された方々、近隣住民の皆さま、お客さまを含め多くの方々に多大なご迷惑をおかけしました。今後、このような事故を二度と起こさないという決意のもと、事故防止のための活動を継続的に実施しています。

堺化学工業(株)では、全社重要リスクに「火災・爆発」を設定し、リスク低減に努めています。また、湯本工場の亜鉛末工場爆発火災事故の発生日を「安全への誓い」とし、毎年、全従業員に向けて社長からメッセージを発信しています。

また、火災・爆発への継続的な取り組みに加え、国内のグループ各社の工場に対しては安全パトロールを実施しています。そこでは、過去に発生した労働災害の対策が実施されているかを確認し、再発防止の徹底に努めています。

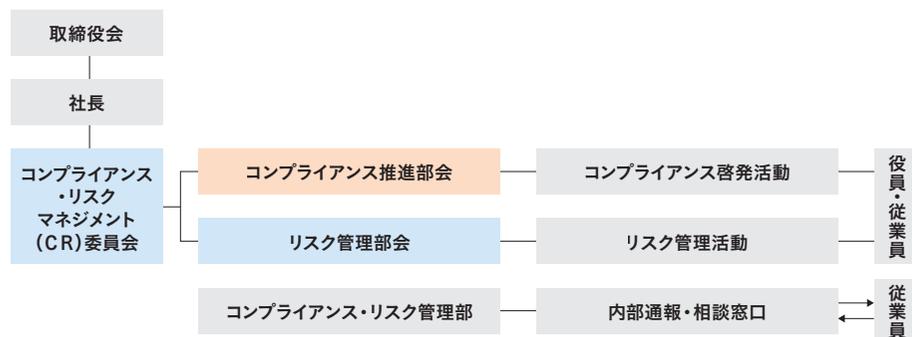
価値創造の源泉(資本)

リスクマネジメント **コンプライアンス** 危機対応 事業リスク

コンプライアンス・リスクマネジメント体制

堺化学工業(株)では、コンプライアンス・リスク管理活動を推進する社長直轄の組織として、「コンプライアンス・リスクマネジメント(CR)委員会」、その下部組織として「コンプライアンス推進部会」「リスク管理部会」を設置しています。

堺化学工業(株)のコンプライアンス・リスクマネジメント推進体制図



リスク管理活動

事業運営に大きな影響を及ぼすリスクの中から、年度ごとに「全社重要リスク」を定めて管理しています。2024年度は全社重要リスクとして、「情報管理」「有事の際の初動体制確立」「化学物質(毒劇物)の適正管理」の3テーマを選定しました。

コンプライアンス推進

従業員一人ひとりが高いコンプライアンス意識を持ち、公正で誠実な事業活動を続けていくことが企業価値向上に寄与するという考えのもと、各種研修会や動画視聴会、コンプライアンスハンドブック講読会などを実施して啓発しました。2024年度も継続して実施します。なお、2023年度の主な活動実績は次の通りです。

■内部通報

通報実績は7件で、いずれも規程に基づき適正に対応しました。

■情報セキュリティインシデント

報告実績は10件で、そのうち重大なインシデントはありませんでした。

■腐敗行為インシデント

報告実績は1件で、そのうち重大なインシデントはありませんでした。

■コンプライアンス研修

基幹職向け研修:587/662人(89%)、管理職向け研修:133/133人(100%)

BCM(事業継続管理)とBCP(事業継続計画)

堺化学工業(株)では、BCMの基本方針を掲げ、BCMS(事業継続管理システム)規程ならびにBCPを策定しています。運用にあたっては実効性を重視し、安否確認の演習や備蓄品使用演習などの訓練を強化しています。特に人命最優先の観点から、安否確認方法の見直しや繰り返し訓練も実施しています。

BCM基本方針

- (1) いつ、いかなる時も人命の安全を最優先する。
- (2) 地域社会に迷惑をかけないよう、二次災害の防止に努める。
- (3) 災害発生時には、地域社会、行政、取引先企業などと連携して地域の復旧に努める。
- (4) 災害発生時において、重要業務を中断させず、事業活動が中断した場合も目標復旧時間内に機能の再開に努めるなど、顧客の流出、シェアの低下、企業価値の低下などを最小限に抑える。

情報管理

堺化学工業(株)は、全社的な情報管理体制を確立し、秘密情報の基本的な管理方法を定めた「情報管理規程」や電磁的な情報資産の適切な取り扱いを定める「情報セキュリティ規程」など、諸規程を整備し、定期的にセキュリティ教育や訓練を実施しています。

今後も、多様化する情報セキュリティリスクに対応するため、技術的対策、管理・運用面の対策、人的対策に継続して取り組みます。